

コラム なにから手をつけていいかわかりません

- 何か政策を実施するとなると、当然、検討体制づくりが必要になります。例えば居住支援協議会の準備会の設立などが考えられるでしょう。
- ただし、一足飛びに、関係課がすべて参集するような大々的な検討体制をつくるとなると、その開催のための合意形成に時間がかかることになります。また、なかなか率直な意見が出にくい、立場上「お付き合い」しているだけ、ということも起こり得るでしょう。
- まずは担当者ベースで日々の業務の中での関係づくりや顔の見える小さなネットワークづくりから始めてみませんか。その土台の上に、正式な検討体制をつくっていった方が、中身のある議論が期待できます。

1. 「形」を急ぐより「コンセンサス」

- ◆ 法令で強制される事業ではないので、実施方法、内容などはコンセンサスが必要。
- ◆ 「こうすればどこでもみんな納得してうまくいく」という特効薬はない。
- ◆ 観念的かつ一足飛びに「形」を作ってみても、コンセンサスがなければ「実働」しない。

2. 「顔の見える関係」を

上記1とも関連して・・・

- ◆ 形式ばった会議も必要かもしれないが、動いて、話して、顔の見える関係をつくっていく。
- ◆ 立場によって、モノの見え方は違って当たり前。“Face to Face”で相互理解を深める。
- ◆ 各政策分野を「共通言語」化していく。

3. 行政だけで抱え込まない

- ◆ 行政だけの力で解決すべき/できる課題ではない。地域のいろいろな力を借りた仕組みづくりが必要(地域共生社会)。



R3年度『居住支援サロン』への参加募集について

○『居住支援サロン』 計3回程度の開催を予定（第1回は8月頃を予定）

目的

居住支援の取組みを進める上で欠かせないのが、課題を共有できる仲間の存在です。地方公共団体の職員、居住支援団体、不動産事業者など居住支援に関わる方々が日常の業務の中で抱えている課題やケースについて意見交換を行うための『居住支援サロン(オンライン)』を設置します。

サロンへの参加方法

勉強会視聴後にご協力いただくアンケートにおいて、「参加の有無」「他の参加者と意見交換したいテーマ」をご記入ください。

事務局で参加者属性やテーマをとりまとめ、居住支援サロンにご招待いたします。

こんな方の参加をお待ちしています

- 周りに相談できる人がいない。 ○相談する相手が分からない。
- もっと居住支援のネットワークを広げたい。
- こんな取組みをしたいと考えているがみんなに意見をもらいたい など

